

菅 宏会長 ハフマン記念賞を受賞

松尾隆祐

本学会会長大阪大学理学部菅宏教授は1992年度カロリメトリー会議でハフマン記念賞を受賞された。受賞の対象となった研究は結晶における無秩序性の凍結とその遅い緩和に関するものである。この賞は熱測定分野で43年の歴史をもつ名誉ある賞である。ユタ州スノウバードで開かれたIUPAC化学熱力学会議とアメリカカロリメトリー会議の合同会議で菅教授はFrozen-in Disorder and Slow Relaxation in Crystalsと題する受賞講演を行った。同教授はシクロヘキサノールや氷、包接水和物など多様な結晶中で起こるエンタルピー緩和の測定、ドーパントを利用する緩和の促進効果、そして研究の過程で生まれた凝集状態の新しい概念としてのガラス性結晶を論じて参加者に感銘を与えた。この受賞は1950年代に始まる菅教授の仕事が多く研究者によって独創的なものとして高く評価されたことを意味する。

故Hugh Huffman博士の名はG.S.Parksとの共著The Free Energies of Formation of Some Organic Compoundsによって多くの研究者に知られている。今日でも基本的な有機化合物の熱データのもとをたどると信頼性の高いデータとしてしばしばハフマンの論文にゆきつく、彼は燃焼熱と熱容量の測定に秀でた実験家であり、生化学系への熱力学の応用を始めた研究者の一人でもあった。オクラホマ州パートルズヴィルにあるThe National Institute for Petroleum and Energy Researchはアメリカ鉱山局で彼が始めた石油熱力学研究所がその出発点となっている。

ハフマンは1946年にアメリカカロリメトリー会議が発足するにあたりその中心となった研究者の一人であり、3年にわたって初代会長をつとめた。1950年に彼が死去したとき、同会議は彼の業績をたたえてハフマン記念賞を設けた。以来今回の菅教授を含めて40人の研究者が受賞した。受賞者リストには反応系、非反応系、固体、液体、溶液、生体、高温、低温等、熱測定の様々の分野で顕著な業績をあげた研究者の名が見られる。受賞者の大半はアメリカの研究者であるが、カナダ、イギリス、スウェーデン、オランダ、ドイツからの受賞者もあり、現在では、カロリメトリー会議が国際的学会に変貌するにともなって、ハフマン

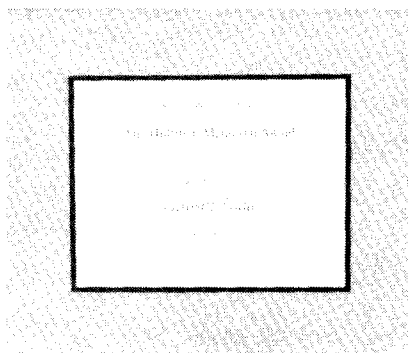


Photo 1 ハフマン記念賞



Photo 2 ハフマン記念賞受賞講演後の菅教授。左から村上幸夫さん、ジュリアナ・ベリオ・ゴウツさん(受賞講演座長)、菅宏教授、阿竹徹さん。上平初穂さん撮影。

賞も世界的な賞となった。菅教授はアメリカとヨーロッパ以外の地域からの最初の受賞者である。なお1986年以降の受賞講演はJournal of Chemical Thermodynamicsに掲載されている。カロリメトリー会議にはこの他にジオーク賞、スナナー賞、クリステンゼン賞があり、IUPACにはロッシーニ記念講演があって、それぞれ優れた成果をあげた熱測定研究者を顕彰している。